

令和8年度 学校経営方針（案）

札幌市立北野台中学校

【第2期札幌市教育振興基本計画】令和6年度～15年度の札幌市の教育の目標や方向性

目指す人間像「自立した札幌人」

- ◆未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
- ◆自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
- ◆ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人

【令和8年度 札幌市学校教育】

◆子ども観・教育観

- ・どの子どもよさや可能性
- ・子どもを他者と比較するのではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切
- ・子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージ

◆学校観

- ・「みんな違う」を原点として多様性を認め合う場
- ・「本物の経験」を通して、「自由」と「共生」を学ぶ場
- ・責任ある行動をとる力を身に付ける場
- ・子ども一人一人の「自立」を支える場

◆札幌市学校教育の基盤「人間尊重の教育」

- ・「人間尊重の教育」を札幌市学校教育の基盤として位置付け
- ・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する相互承認の感度を高める教育活動の推進
- ・「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を相互に関連させて取り組み、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり
- ・推進に向けた三つの視点
 - 視点1 「教職員自らの人間尊重の意識の向上」
 - 視点2 「校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育に向けた取組の推進」
 - 視点3 「子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手立ての構築」

◆【知・徳・体の調和のとれた育ち】

- ・「学ぶ力」自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力
- ・「豊かな心」他者を思いやる心、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する
- ・「健やかな体の育成」生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに積極的に心身の健康の保持増進を図る資質や能力

◆社会に開かれた教育課程

- ・ 一貫性・連続性のある教育
- ・ 子どもの学びや育ちのつながり
(幼保小連携、小中一貫した教育、中高連携)
- ・ 家庭や地域との連携・協働

◆令和8年度 全ての教育活動を貫く重点

- ・「子どもの声を聴く」を全ての教育活動を貫く重点として学校教育を推進
- ・家庭や地域とともにある学校づくり
- ・札幌らしいコミュニティ・スクールの導入

小中一貫した教育と連動さっぽろっ子自治的な活動と学校運営協議会をつなげる

- ・課題探究的な学習
AARサイクル（イントロダクション・個別探究と協働探究・リフレクション）
- ・さっぽろっ子自治的な活動
子どもが「～したい」という意欲をもち、よりよい方法を考えて動き、集団づくりや社会への参画を通して、変化を生み出した喜びを手応えとして心に残す主体的な活動

◆「学ぶ力」の育成

- ・未来に生きて働くための「本物の経験」となりうる場の創出
- ・ 学ぶ力育成の二本柱（課題探究的な学習・自治的な活動）
- ・ICTを活用した教育の推進（1人1台端末の活用）

◆「豊かな心」の育成

- ・いじめの防止（いじめ防止対策推進法に基づく組織的対応）
- ・学校・家庭・地域総ぐるみで、いじめは「しない・させない・許さない」を徹底
- ・ 生命（いのち）の安全教育、命を大切にする教育（自尊感情をもち、自他の命を大切にする指導の徹底）

◆「健やかな体」の育成

- ・保健体育等の授業の充実
- ・授業以外での運動機会を創出する取組
- ・子どもが自ら健康づくりを図る取組の充実

◆札幌らしい特色のある学校教育

- ・全ての学校が取り組むテーマ「雪・環境・読書」

◆子ども一人一人のニーズに応じた支援

- ・特別支援教育の充実
- ・不登校支援（未然防止・早期発見対応）
- ・教育支援体制の充実

◆防災を含む安全に関する教育

- ・安全教育の三領域（生活安全、交通安全、災害安全）と推進のための組織活動
- ・熱中症対策を盛り込んだ危機管理
- ・防災教育の推進

◆教職員の資質向上

- ・札幌市が求める教員像と教員育成指標
- ・教職員自らが学びのデザイン

R 8 サブテーマ：「校外での学びを校内での学びや実践に生かす研修デザイン」

「探究型研修の追求」

1 学校教育目標（*昭和 63 年開校時に設定）

「豊かに自己の未来をひらく生徒の育成」

- | | | |
|---|----------------------|-----------|
| 1 | 自ら学ぶ意欲と主体的に生きる能力を育む | 〈自主・自立〉 |
| 2 | 自由と自律の精神と実践力を育む | 〈自由・自律〉 |
| 3 | 信頼と敬愛にみちた心を育む | 〈信頼・敬愛〉 |
| 4 | 心身共にすこやかでたくましい生命力を育む | 〈暢びやかな心身〉 |

2 めざす生徒像（*平成 30 年に改訂）

「変化の激しいこれからの社会で、豊かに未来を切り拓くことができる生徒」

- 1 自ら課題を見つけ、他者と協働しながら最適解を見出そうとする生徒
- 2 失敗を恐れず、勇気をもって未知なるものに挑戦できる生徒
- 3 自己を肯定し、多様な価値観を理解し認め合う生徒

3 本年度の重点目標

- 1 「学ぶ力」の育成を図る課題探究的な学習やさっぽろっ子自治的な活動の充実
- 2 子どもに自分を大切に思う自尊感情や自他の生命を大切にする指導の徹底
- 3 子ども一人一人のニーズに応じた支援や教育の充実
- 4 **一貫性・連続性のある教育の実践**

4 学校経営の重点

生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

～**子ども一人一人が学校づくりの主人公と実感できる場を創出し、**子どもの声を聴くことを大切にする学校教育の推進～

[参考]

令和 8 年度 北野台小学校の教育

「一人ひとりが主人公となる学校」

- ～ 一人ひとりが大切にされ、キラキラできる学校 ～
- ・まなびづくり
 - ・こころづくり
 - ・からだづくり

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実

- ・「課題探究的な学習」の視点から子どもが自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習を重視するとともに、AARサイクルによる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的、対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図る。

- ・「さっぽろっ子自治的な活動」「プラスのまほう」を踏まえ、子どもが「～したい」という意欲をもち、自分たちで問題を解決し、自分たちの行動に責任をもてる主体的な活動を推進する。
 - ・「評価のための評価」ではなく「授業改善のための評価」という視点から、観点別学習評価の工夫・改善を図る。
 - ・T Tや少人数指導の効果的な活用を図り、基礎的基本的な学力の定着を図るとともに、学習への意欲を高める指導の充実を図る。家庭学習定着のため、家庭との連携や情報発信などに努める。
- (2) 小中一貫した教育パートナー校との連携
- ・パートナー校である北野台小学校との連携を深め、9年間の学びやこどもの育ちにつながるよう教職員が互いの教育活動や日常の学習指導、生徒指導等について相互に理解を進める。
 - ・「札幌らしいコミュニティスクール」導入により、家庭や地域と連携した取組の一層の充実を図るとともに、家庭や地域に積極的に発信を図る。
- (3) ICTを効果的に活用した教育の推進
- ・教育活動の様々な場面において1人1台端末を文房具として、子どもが主体的に活用し、効果的かつ積極的に活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるなど、学びの質を高める。
 - ・「情報社会に参画する態度」「情報の科学的な理解」「情報活用の実践力」など、情報手段を用いて適切に収集・整理・比較・発信等ができる情報活用能力の育成を図る。
- (4) 挨拶・言葉遣い等の重視
- ・「常に生徒と向き合う姿勢」を全職員で実践するとともに、生徒の気持ちを理解し、生徒一人一人に応じた対応を心がけ、細かな心情の変化も見逃さない取組と教職員間の連携体制を確立する。
 - ・「挨拶」「言葉遣い」「思いやりの心」を指導の重点に置きながら、基本的な生活習慣の定着を図っていく。併せて、生徒同士でも正しい判断ができ、お互いに助け合える規範意識の醸成を図っていく。
- (5) 思いやりの「心をかたち」に表す
- ・生徒、教職員一人一人が「ありがとう」の感謝の気持ちをかたちに表し、効果的な人間形成と友達や仲間、教職員とのつながりを意識できるように指導を行う。
- (6) いじめ防止の取組
- ・「いじめ防止対策推進法」および「札幌市いじめの防止等のための基本的な方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、問題解決に努める。
 - ・校内いじめ防止対策委員会において、SC、SSW等と連携し、組織的に対応する。

(7) 不登校支援

- ・ 日常的な声かけや相談等と併せて心の健康観察アプリも活用することで、生徒の抱える人間関係や学業の不振などの悩みを早期に把握し、一人一人の状況に応じた支援を行う。
- ・ SCや相談支援パートナー、学びのサポーターなどと連携するとともに、校内学びの支援や相談体制の充実を図るなど組織的対応を図る。

(8) 一人一人のニーズにあった支援の推進

- ・ 通常学級、特別支援学級ともに、生徒一人一人の状況に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うことができるよう、校内学びの支援委員会を充実させるなど教職員全体で情報の共有を図る。
- ・ インクルーシブ教育充実の観点から、「共生社会」の形成に向けて子どもの社会性や豊かな人間性を育むために「交流及び共同学習」の推進を図る。

(9) 信頼される学校の創造

- ・ 教職員が強い使命感をもって専門性の向上に主体的に取り組むとともに、教育情報の発信、校種間の連携の強化、防災教育の強化、教員の資質向上などを通して、地域から信頼される学校づくりに努める。

(10) 学校における働き方改革の推進

- ・ 「札幌市立学校における働き方改革プラン」に基づき、保護者や地域の理解を得ながら学校として「働き方改革」と「働きやすい職場づくり」を推進する。
- ・ 勤務時間を意識した働き方

○1 か月時間外在校時間を年間平均 25 時間以内にする
○年間の年次有給休暇の平均取得日数を 18 日以上にすること
- ・ 業務の見直し・環境整備
- ・ チーム学校の体制整備
- ・ 教職員が心に余裕をもって子どもと向き合う時間を確保することが質の高い教育につながることから、「校務支援システム」や「すぐーる」等の効果的・積極的な活用による事務作業の負担軽減を図る。
- ・ 長期休業中の休校日や部活動休養日、定時退勤日の確実な実施を行う。

北野台中に通ってよかった、通わせてよかったと言ってもらえる学校を目指しましょう。
--